

日本不整脈心電学会開催のご報告

2023年1月28日に浅川哲也先生（山梨厚生病院副院長・日本不整脈心電学会関東甲信越支部地方会会長）の主催のもと、第3回日本不整脈心電学会関東甲信越支部地方会が開催されました。

学会運営は首都圏甲信越14大学講座のほかに4施設を加えた18施設で、歴史の長い循環器内科の新しい分野で、最新の情報や知見が集る学会です。一般演題45、会長企画の演題、高度で専門的な発表、講演・セミナー、情報提供等、計81のテーマについて学術的な議論が交わされました。参加者は333名で、当院からも循環器内科の後藤剛顕先生、秋山裕一郎先生、武井俊樹先生の発表がありました。

このような大きな学会が当院医師の代表者（副院長）の主催下に行われたことは、当院開設以来初めてのことであり、私たちにとって大変名誉なことです。ここでは長い間、当院で循環器内科診療を重ねてこられた浅川副院長にお話を聞き、当広報誌を通じて皆さまにお伝えします。



副院長 浅川 哲也 医師



(1) どのような経緯でこのように新しい領域で規模も大きな学会の主催に至ったのでしょうか？

当院では平成6年ごろより不整脈治療に対しカテーテルアブレーションを山梨県でいち早く導入してまいりました。その甲斐あってこの不整脈心電学会地方会を立ち上げる際の山梨県支部役員に任命されました。学会大会長は支部役員の中から選ばれることが多く、第3回に大会長を命ぜられた次第です。

(2) 開催に際して特にご苦労された事などお教え下さい。

まずは会場選びが大変でした。地方会といえども関東甲信越地区は各地方会の中でも最も会員数が多く東京で行う選択肢もありましたが、山梨の活性化を鑑みて甲府で行うことといたしました。できれば甲府駅近くとは思いましたが、会場の広さ等から一番大きな会場を有する甲府記念日ホテルを選択いたしました。また企画当初はまさか COVID-19 の第8波があるとは想像もしていなかったので会場での感染対策も苦慮いたしました。さらには数日前からの予想外の大寒波襲来と前日の甲府初雪で一時はどうなるのか心配いたしました。当日は快晴で富士山の眺望も良好、他県からの出席者も大変喜んでいただけた事、幸いでした。



(3) プログラム巻頭と開会式のご挨拶にもありましたように、会場での実際の相互的なディスカッションの場では、今回の学会開催の趣意が色濃く反映されていたように感じました。この点についてあらためて先生のご見解をお聞かせ下さい。

本来、学会は

- ① 臨床医として最近の新しい知識、治療法等の情報を収集し患者様の診療に役立てること
- ② 研究者として学会発表することにより疾患、治療等の研究心を保ち自己研鑽していく

この2つの目的のために行われるものであります。しかしながら最近 COVID-19 の影響で開催自体の中止や web でのオンライン開催になってまいりました。

①に関しては web の方がかえって便利な面があり、さらには会場に行かずして自宅等にて参加できるため都合がよいという意見もありますが、②に関してはディスカッションが難しく発表が一方通行になりがちで意見、評価をいただく機会がありません。今回も COVID-19 第8波の中でありましたが、現地開催すなわちオンサイトでの開催としたところ、予想以上の関係者に参加していただきました。おそらく多くの先生方が web での学会の物足りなさを感じ、現地開催を望んでいた結果かと感じました。またこの地方会は全国大会と異なり、主な目的が若手の先生方の教育と不整脈診療の裾野を広げることにあります。今回はそのことを念頭に置いたプログラム作りをさせていただいたことも多くの参加をいただけたものと思われまます。当院からも3名の先生が素晴らしい発表をしていただきこの目的を果たせたかと感じています。



後藤 剛顕 医師



秋山 裕一郎 医師



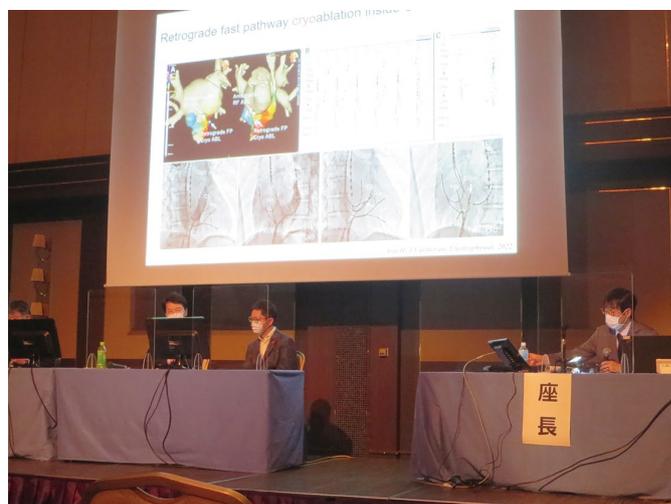
武井 俊樹 医師

(4) 会長企画のテーマはどのようなお考えのもとで決められたのかお教え下さい。

今回の会長企画シンポジウムは『ヒス東近傍起源頻拍の診断とカテーテルアブレーション』というテーマで行いました。この頻拍治療には、まず若手の先生方がカテーテルアブレーションを入門する上での多くの不整脈に対する基礎的知識が必要とされ、治療結果も得られる疾患であり経験すべき頻拍であります。また私自身もアブレーション導入当時から非常に興味を持ち続けている疾患なので今回採用させていただきました。



副診療部長 中川 和也 医師



(5) 最後に私たち（受診者の方々、病院職員、次の世代の医療従事者）に向けてメッセージをいただけますでしょうか。

学会活動は大学の医師が研究目的に行っているものと思われがちな面があり、当院のような一般病院に勤務してしまうとこういった活動はその必要性が希薄に感じてしまうことがあります。しかしながら頻度、程度にもよりますが、我々は学会や研究会に参加することでより多くの新知識、治療法を得ることが可能であり、さらには学会活動をすることにより厚生病院における医療レベルを保ち、結果患者様

の診療に貢献できることとなります。このことは医師だけでなく、他の医療従事者すべてに共通することであり、医療レベルを上げることが厚生病院における今後の医療従事者の獲得につながるものと思います。次の世代の山梨厚生病院医療従事者が、今後多くの学会、研究会等に参加することで自己研鑽し、厚生病院のさらなる発展、最終的には患者様に対する最善の診療につながることを期待しております。



会長挨拶

第3回日本不整脈心電学会関東甲信越支部地方会

会長 浅川 哲也 (山梨厚生病院循環器内科)

第3回日本不整脈心電学会関東甲信越支部地方会を担当させていただくこととなりました。例えばこの地方会、第1回から波乱の幕開けで、野上昭彦会長のもと2020年5月開催予定が新型コロナにより延期され、仕切り直して予定された2021年1月も結局Web開催となってしまいました。しかし意外にもこのWeb方式が「行かずして多くの講演を聞ける」「所属地方会以外からも参加できる」等、好評であったようです。この地方会が他の支部地方会のお手本になったようにも思われます。

第2回は金古善明会長のもと、2022年1月に開催されました。オミクロン株による第6波の襲来と重なりましたが、何とかon siteで行うことができ、久しぶりの現地集合で活発な質疑応答が飛び交い、学会の本来あるべき姿を見た気がいたしました。

厳しい状況下にもかかわらず素晴らしい地方会を作り上げた野上会長、金古会長には心から敬意を表します。二つの地方会の共通点は「若い先生方を多く登用し、地域の不整脈診療の底上げを図る」ことと思われまます。第3回もこの理念を踏襲し、関東甲信越支部で現在活躍されている若手中堅の先生方に多くの役割をお願いいたしました。その一方、関東甲信越支部には著名な先生方が多数いらっしゃいますので若手不整脈診療医のための、この支部ならではの教育セミナーも企画いたしました。また、総会には参加、発表する機会の少ない地域の先生方にもなるべく多く参加していただけるよう工夫を凝らしました。この地方会を通じて郷土山梨の富士山のように地域における不整脈診療の裾野を広げることに少しでも寄与できればと考えております。